

未来 ひだか

みらくる

VOL.3 2008.1月号

日高農業改良普及センター

2008年！ 普及は今年も農家の皆様方の側に立った活動を進めてゆきます

明けまして、おめでとうございます。

干支も一巡し、新しく「子（ねずみ）」から始まります。中国では、昔から子孫繁栄の生き物として縁起がよいと言われてれています。日高の農業生産もあやかりたいものですね。

新春の初夢は日高らしく次のようなのは、いかがでしょうか。



「世界に通用する強い馬づくり」により生産された日高の優駿が各地のレースで活躍、道営競馬も活気を取り戻し懐も潤ったので、地域の特性を活かした、複合経営を目指す農家から生産された牛肉やねぎで、すき焼きを賞味、デザートにはこれまた日高特産のイチゴやトマトジュースを食する。

まさに、日高でしか味わうことの出来ない「地産地消」初夢ではないでしょうか。



さて普及センターも組織、体制が新しくなって、早3年目を迎えました。本年も「地域の特性を活かした多様な農業の展開」や「優れた担い手の育成確保」をメインとした「日高アクションプラン」の推進に努めてまいります。現在、32名の職員が、本所（新ひだか町静内16名）と2つの支所（東部・浦河町6名、西部・平取町10名）に在籍しています。専ら地域振興を図ってゆく「地域係」と日高に共通的な課題で、専門的技術をもって解決が急がれる課題に取り組む「広域班」に分かれ、活動しています。

具体的には平成17年から21年までの5カ年間、計画的な普及活動を進めるために28の課題を持って取り進めているところです。特にその中の6つについては、ある地域を対象に重点的に取り組んで課題解決を図る「重点課題」としてしています。そこで得られた成果については、隣り合う他の地域の皆様にもお知らせします。更に町全体の農業生産性向上に寄与させてゆきたいと考えています。



また、広域班の課題についても3課題を重点的に取り組み、その成果はセンターのホームページ等で情報提供し、普及・定着化を推進してまいります。

各計画の具体的な進め方については、対象となる地域の農家の皆様方との話し合いの中からご意見、要望を十分お聞きし、普及センターからも活動の方向性をお示しすることにより「地域の将来あるべき姿」について双方が同じ思いが持てるよう提案型、実証型の普及活動を進めてまいります。

そのため町やJA等の関係機関との連携も密にしながら、より効率的で重点化した普及活動を展開してゆきます。



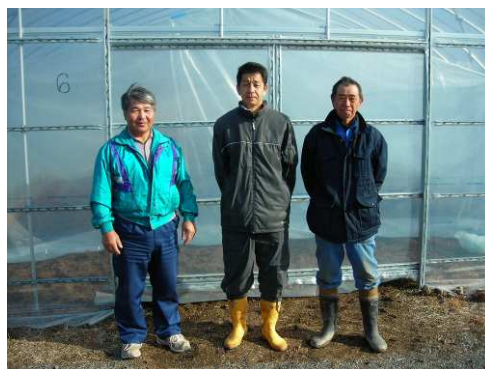
本所

ほうすい 農業生産法人「豊穂」誕生

普及重点対象の静内豊畑地区で、本年3戸による農業生産法人「株式会社豊穂」が誕生しました。

3年前から、「豊畑地区の農業を維持するためには」と地域共同化を視野に、農業者、町、農協、普及センターがともに検討を重ね、昨年から発足に向けて個別経営と法人経営シミュレーションを比較検討し、本年に到っています。

水稻と施設園芸による複合経営で、将来は、売上1億円を目指しています。メンバーは、「静内では、耕種部門の共同生産法人の設立は初であり、地域農業の発展に貢献したい」と抱負を語ってくれました。



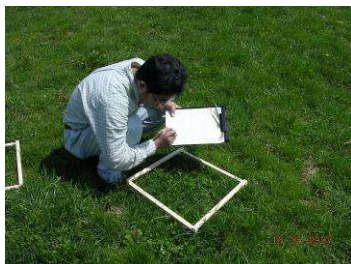
構成員の(写真左から)
日蔭由昭氏、村田信治氏、佐々木昭二郎氏

健康な子牛を育てるには良い草づくりから

広域専門（畜産）チームは、春先から草地管理に関する調査（植生調査、草地土壌分析、粗飼料成分分析）を進めてきました。

定期的実施している活動検討会では、これらの調査結果をもとに、重点農家のみなさんや関係機関スタッフと、草地の生産性向上に向けた対策について検討しています。

各重点農場では、さらに具体的に、土壌分析値をもとにした来年度の施肥設計や、牧草品質を考慮した粗飼料主体の育成牛飼料給与が実施され、生産効率の高い肉牛繁殖経営モデルの確立に向けた取組が進んでいます。



全ほ場で植生調査を実施



重点農家、関係機関との活動検討会



よい草を食べ健康に！！

第3回みついし牛枝肉共励会

第3回みついし牛枝肉共励会が、11月28日、東京食肉市場で開催され、JAみついし、JAひだか東、JAにいかっぷから20戸、36頭が出陳されました。

審査の結果、最優秀賞を手にしたのは、新冠町太陽の庄司敏さんで、初の受賞でした。出陳牛の格付けは「A-5」で、枝肉重量520kg、BMS12と、「枝肉の作りから肉質について申し分のない作り」と高い評価を受け、購買においても、1kg当たり3,167円の高値で取引されました。

本共励会は、研究会から数えて12年目となり、市場から高い評価を得ています。近年は、本州の大手スーパーや高級焼肉店などで「みついし牛」として販売されるほど知名度も上がりつつあり、今後さらなる品質の向上とブランド化の確立が期待されています。



最優秀賞の表彰を受ける庄司さん



共励会褒賞式

西部支所



活気あふれる豊かな郷づくり(日高町豊郷)



畑作物の施肥設計相談

今年は基本技術の確立に向けアパラガス、畑作物の生産性向上に重点を置き、定期的な生育状況に対応する技術支援を中心に行いました。特に今年のような天候不順による水稲収量の低下時には、補完作物の安定生産が重要であったと言えます。

また本年新たに安全、安心に向け取り組んだ病害虫防除試験、堆肥分析と土壌診断に基づく適正施肥の結果について、検証を現在行なっています。



生産者と立茎管理状況を確認

専用機械による春小麦の初冬まき(平取町)

平取町芽生において日高管内で初めて「春小麦初冬まき」が専用機械で行われました。

春には種する春小麦を前年の根雪前には種する技術で「究極の早まき」と言えます。この技術により、は種遅れによる減収を防いだり、品質向上が期待できます。

初冬まきで重要なのは「雪」です。積雪により土壌中で「出芽していない状態」で越冬させることが基本です。

根雪期間が短い日高では条件設定が難しく、実証試験を重ねる必要があります。

道産春小麦(品種名:春よ恋)はパン加工適正が良く、需要は高まっており、「初冬まき」を導入できれば、平取町の春小麦栽培に「春」が訪れることでしょう。



初冬まき専用は種機



は種後の様子

酪農に黒毛和牛を導入(平取町)

平取町の和牛生産は昭和37年から始まりました。水稲野菜・畑作などとの複合経営が主体となっていましたが、平成18年には、3戸の酪農家が黒毛和牛を導入しました。乳牛と和牛との違いにとまどいながらも、農協、普及センターの助言に耳を傾け、繁殖、育成管理を真剣に学び、実践しています。

その成果が、安定的な乳・肉複合経営に結びつくことが期待されています。



育成の様子



子牛の体重・体高を計測して発育状態を確認

